

令和4年度 体験活動普及啓発事業
家族DAY②～冬の曾爾高原からのおたより～

1. 目的・ねらい

冬季の自然体験の中で感じたことについて、筆文字アートを通じてそれぞれの感性で表現する機会を提供する。家族のコミュニケーションを図る機会とする。

2. 実施日

令和5年1月14日（土）～15日（日）

3. 対象者

小学生を含む家族

4. 参加者 / 募集定員

42名（12家族） / 40名

5. プログラム（概要）

森あるきや火おこしなどの体験活動および消しゴムはんこ作りや筆文字アートなどの創作活動をバランスよく楽しめるよう、プログラムを構成した。また、参加者の年齢層の広さを考慮し、時間に追われることなく、全員が家族内や家族間での交流を深められるような時間設定とした。

6. スケジュール

	主なスケジュール
1/14 (土)	<ul style="list-style-type: none">・開会式・アイスブレイク・消しゴムはんこ作り・森あるき・火おこし体験・レクリエーション カプラ、ボール遊び
1/15 (日)	<ul style="list-style-type: none">・筆文字アート・作品展覧会・閉会式

1日目は開会式の後、これから一緒に過ごす参加者同士の緊張感をほぐすため、アイスブレイクとして数種類のゲームを行った。その後、研修室「こごう」に移動し、各家族単位に分かれて消しゴムはんこ作りを行った。参加者たちはまず、題材やデザインを考え、

トレーシングペーパーに下書きを描いた。完成品のイメージが固まったところで消しゴムに転写し、彫刻刀を用いて消しゴムに彫り始めた。どの家族も集中した面持ちで取り組んでおり、出来上がった作品になかなか納得がいかず、夜の自由時間に作業の続きをしたいという参加者もいた。完成品は、自身の名前が題材となっているものが多く、ひらがなや漢字、アルファベットなど、限られた面積の中で個性が光っていた。



次に「森あるき」と「火おこし体験」を行った。小雨が降る中ではあったが、参加者たちはものともせず、持参した雨ガッパを羽織り、外へ出た。「森あるき」は職員帯同のもと、普段、森林環境教育プログラムにて使用している施設内の山道にあるき、日常生活では見ることのできない景色を楽しんだ。「火おこし体験」では、キンドリングクラッカーを使った薪割りや、ファイアスターターを使った火おこしに挑戦した。初めて扱う道具に苦労していた様子であったが、どの家族も親子、もしくは兄弟で協力し合い、火おこしを成功させていた。



夕食と入浴を済ませた後は、プレイホールとエコロジーホールを開放し、自由時間とした。プレイホールでは、子ども、保護者、ボランティアたちが一緒になってドッジボールを楽しんだ。なかなかボールが取れない年少の子に、年長の子が譲ってあげるなど、子どもたちの間で交流がうかがえた。エコロジーホールで

は、子どもたちがカプラに熱中したり本を読んだりしていた。その傍らで、保護者同士はそれぞれ親睦を深めており、家族間での緊張感はほぐれた様子だった。

2日目は朝食の後、研修室「こごう」にて筆文字アート製作に取り掛かった。作品のテーマを「自分の名前」「自然の家の思い出」とし、テーマごとに1枚ずつ作成した。作業開始前のレクチャーでは、書き順を気にしないでいいことや、2度書きしてもいいこと等を伝え、習字のように、お手本に忠実に書くことが目的ではないことを重視した。2つの作品は文字を書く前にまず、カラー筆ペンで背景を描いた。自然の家での体験活動で印象に残ったことを背景の題材としたが、筆ペンならではのにじみをうまく活用し、たき火の絵や深い霧の絵などが描かれていた。背景が乾くまでの間、どんなデザインの文字にするか、試行錯誤を重ね何度も下書きを繰り返した。そしていよいよ本番に取り掛かかり、それぞれの感性のままに筆を走らせた。仕上げに、初日に作成した消しゴムはんこを押し、完成となった。



昼食の後、作品展覧会を行った。机の上に2つの作品を並べ、参加者が自由に見て回り、各作品の魅力だと思ふところや感想を書き合った。



7. まとめ

今回は消しゴムはんこ作りや筆文字アートなど、創作活動を多分に盛り込んだプログラム構成であった。また、家族で協力して一つの作品を作り上げるのでは

なく、一人一人が自分だけの作品を作るシーンが多かったが、「家族で(各々の)芸術作品を一緒に作ることはあまりない経験だった」や「大人も夢中になって参加できた」など、一定の評価もアンケートから読み取ることが出来た。一方で、「屋外体験が多いと嬉しい」や「立地環境を生かした体験がしたい」など、自然と触れ合う時間を多くとりたいという意見も散見された。今後もより多くの家族に、体験活動に興味を持つきっかけとなるプログラムを提供していきたい。

(事業推進係 浅田 賢治郎)